

ライチョウの四季



文と写真◎堀野 眞一 Horino Shinichi

広報普及科

春のライチョウ

背後のハイマツの茂みにいる
メスを防衛しようとしているオス。
北アルプス大天井岳の稜線にて。

ライ チョウは北極の周囲に広く分布する鳥で、多くの亜種に分類されています。そのひとつニホンライチョウ (*Lagopus mutus japonica*) は、北アルプス、御嶽山、南アルプスなどの高山に生息しています。夏を高山で過ごす動物はほかにもいますが、多くは冬になると標高の低いところへ移動します。鳥では、ホシガラスやイワヒバリがそうです。しかし、ライチョウは厳しい冬の間も高山に留まって生活します。移動するとしても亜高山帯までで、それより低いところへ降りることはありません。

植 物の芽や果実をおもな餌としており、細かい植物の破片からできた糞を雪の上で見つけることができます。冬も高山で生活するライチョウは寒い環境に適応していて、脚の先まで羽毛が生えています。

四 季にあわせて、ライチョウは装いを変えます。春は、オスがメスを獲得するために活発に動きまわります。羽毛の色は冬羽から夏羽になる途中なので斑になっています。夏には、ゆつくりと歩きながら植物をついばんでいるようすを見ることが出来ます。早く動く上空の猛禽から見つかりやすいでしょう。また、地上に天敵が少ないため、人の姿を見てもすぐには逃げません。秋には、厳しい冬に備えて採食に余念がありません。

冬 には、オスもメスも真っ白な冬羽に変わります。この見事な保護色のおかげで、雪の上で動かずにいるライチョウを見つけるのは難しくなります。ただでさえ寒い厳しい冬山で、吹雪くときなどはどうしているのでしょうか。ライチョウがもっとも神秘的に見える季節です。♥



夏のライチョウ



秋のライチョウ



冬のライチョウ